

国語(国語表現)

履修単位	3単位	学年	3年	学科・コース	商業科	区分	(必修)・選択
------	-----	----	----	--------	-----	----	---------

1 学習目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2 教材等

国語表現 改訂版 (大修館書店)・常用漢字ダブルクリア (尚文出版)

3 年間学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考 (特記事項や他の科目等との関連)	考查範囲
一 学 期	4	整った文を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・主述の関係, 副詞の呼応, 文末表現の統一, 話し言葉と書き言葉の違いなど, 整った文を書くために大切なことを理解する。 	○漢字の書き取り課題を定期的に提出	中間 考 査
		わかりやすい文を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・長すぎる文を避け, わかりやすい文にする方法を理解する。 ・読点を適切に打ち, あいまいな文を避けることの大切さを理解する。 		
		文のつなぎ方	<ul style="list-style-type: none"> ・接続表現の種類と働きを理解する。 ・文脈による文のつながりを理解する。 		
		絵や写真を見て書く	<ul style="list-style-type: none"> ・図や写真を見て文章を書き, 相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。 ・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。 		
一 学 期	5	自分を見つめて	<ul style="list-style-type: none"> ・経験から得たことや学んだこと, 自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて, 自分の長所を見つける。 	期 末 考 査	
		効果的な自己PR	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所を端的に表現した, 印象に残るキャッチフレーズを作る。 ・事実やできごとをふまえて, 効果的な自己PRをする。 		
		将来の自分を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・就きたい職業に就くために必要なことを調べる。 ・調べたことをふまえて, 「将来の自分」について文章にまとめる。 		
		韻文に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> ・韻文の作成に取り組む。 		
一 学 期	6	志望動機をまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> ・志望先について十分な情報を集める。 ・調べたこと, やりたいこと, 自己PRの三つを結びつけ, 説得力のある志望動機を書く。 	期 末 考 査	
		相手や場面に応じた会話	<ul style="list-style-type: none"> ・場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ・適切な言葉遣いでロールプレイをする。 		

7	面接にチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> 適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。 質問に対して、具体的で説得力のある答え方をする。 	
	電話を使いこなす	<ul style="list-style-type: none"> 初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。 相手に応じた適切な言葉遣いや応対の仕方を理解する。 	
	韻文に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> 韻文の作成に取り組む。 	
9	小論文とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 小論文の基本的な書き方を理解する。 意見を筋道を立てて書く。 原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。 	○漢字の書き取り課題を定期的に提出
	反論を想定して書く	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見とは対立する意見を考慮しながら書くことの意味を理解する。 反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。 	
10	発想を広げて書く	<ul style="list-style-type: none"> 発想を広げるための方法を理解する。 発想を広げるための方法を活用して、小論文を書く。 	
	通信文を書き分ける	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな通信文の形式を理解する。 相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。 	
	韻文に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> 韻文の作成に取り組む。 	
11	文章を読み取って書く	<ul style="list-style-type: none"> 文章の要旨をつかむ方法を理解し、読み取ったことを自分の表現に生かす。 読み取ったことに対する自分の意見を明確にして、説得力のある小論文を書く。 	
	統計資料を読み取って書く	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな種類のグラフの特徴を知り、その読み取り方を理解する。 資料から読み取ったことをふまえて、自分の意見を明確にして小論文を書く。 	
12	演説合戦にチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> 賛成か反対かを明確にし、聞き手を説得できるように、筋道を立てて話す。 意見の根拠に注意し、説得力があるかどうかを考えながら聞く。 	
	言葉で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな言葉遊びを知り、おもしろさを味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。 言葉遊びの仕組みやおもしろさを理解し、オリジナルの作品を作る。 	
	韻文に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> 韻文の作成に取り組む。 	

二
学
期

中間
考
査

期末
考
査

三 学 期	1	詩歌を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな詩歌を読み，味わうことを通して，言語文化に対する理解を深める。 ・さまざまな詩歌の鑑賞をふまえて，表現を工夫しながら詩を創作する。 	○漢字の書き取り課題を定期的に提出	卒業 考 査
		韻文に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> ・韻文の作成に取り組む。 		

《課題・提出物等》
各単元の予習 長期休業中の課題 授業で課す課題 授業のノート提出（各考査毎）
《評価方法》
各考査の素点・出席率・授業態度・ノートのまとめ方・提出物の提出状況・小テストの取り組み ・忘れ物等
《年間の学習状況の評価方法》
学習状況は，後に示す5つの観点から評価した1学期の成績，2学期の成績，3学期の成績を総合的に判断し，年間の学習成績として評価します。

4 評価の観点と評価方法

学習状況は，「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」，「書く能力」，「読む能力」及び「知識・理解」の5つの観点から評価します。具体的な評価基準は下の表を参考にしてください。

評 価 の 観 点 と 趣 旨		評 価 方 法
関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図ろうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数に応じ減点 ・授業への参加姿勢や態度 ・提出された課題や発表
話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり，話し合ったりして，自分の考えをまとめ，深めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動等 ・発表を聞いた上での相互評価
書く能力	相手や目的，意図に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えをまとめ，深めている。文字を美しく，かつ読みやすく書いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・作文，感想文 ・ノート ・定期考査
読む能力	文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動中の発言内容 ・ノート ・定期考査
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中の発言内容 ・ノート ・定期考査

5 授業を受ける際の注意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・授業者の話すことを集中して「聞く」こと。まず，人の話をきちんと「聞き取る」能力や態度を身に付けよう。 ・各小テストは必ず予習をし，実力をつけよう。 ・予習・復習を必ずすること。授業だけでは知識や技能を身に付かせることはできない。 ・古典作品などでは暗唱や音読に積極的に取り組み，古典に親しむとともに作品の持つリズムや韻律の流麗さと優美さを感得しよう。
